

# 非核の政府を 求める大阪の会

非核の政府を求める大阪の会 豊島 達哉 梅田 章二  
 〒542-0012 大阪市中央区谷町 7-3-4 (新谷町第3ビル 210号)  
 TEL.06(6765)3032 FAX.06(6765)3033  
 URL・https://hikaku-osaka.jp/  
 E-mail・hikaku-osaka1986@kind.ocn.ne.jp  
 hikakusaka@hotmail.com



第216号 2023年 7月1日

## ニュース

### 原爆投下を裁く「民衆法廷」準備の韓国国際会議参加の旅



# 米国の原爆投下を どう裁くか!

日本原水協からのよびかけの韓国での国際会議に当会を代表して愛須勝也弁護士に参加していただき、レポートをしていただきました。

#### 1 「民衆法廷」準備の国際会議

2026年、ニューヨークで開催されるNPT再検討会議に向けて、アメリカの原爆投下の責任を問う「民衆法廷」の準備が進められており、2023年6月7日、韓国南部の星州(ソンジュ)で開催された「民衆法廷」の準備に向けた第1回国際会議に参加した。会議には日本原水協からの参加者30人を含む180人が参加した。

冒頭、会議を主催した実行委員会に参加するカトリック済州(チエジュ)教区のカン・ウイ爾司教、韓国原爆被害者協会のシム・ジウンテ(ハプチョン)支部長、「平和

と統一を拓く人々」(Solidarity for Peace and Reunification of Korea: SPARK)のロ・ヨンデ共同代表があいさつし、会議が始まった。第1セッションでは「広島・長崎への米国の原爆投下の軍事・政治的意味」を韓国の視点から「をテーマに、イ・サムソン翰林大学名誉教授が問題提起。これに対し、反核法律家協会の大久保賢一弁護士が「韓国人被爆者にとつての原爆投下の軍事的・政治的意味」日本の反核法律家の視点から「コメントするなどの形で会議は進行した。

第2セッションでは「1945年当時の国際法から見た広島・長崎への原爆投下の違法性について」のテーマでエリック・デービッド氏(ベルギーブリュッセル自由大学名誉教授)が国際公法の視点から基調報告。第3セッションでは「1945年当時の慣習国際法から見る広島・長崎への原爆投下の違法性」では、メイソン報告者の山田寿則先生(明治学院大学)が「米国の原爆投下は、当時の国際慣習法に照らして違法であるというべきである」と結論付けた。このテーマでは、ダニエル・リエチカー氏(ローザンヌ大学、国際反核法律家協会(IALANA)共同会長)が討論に参加した。なお、関係者のみで開催された第4セッション(円卓会議)では日本被団協の土田弥生さんが「原爆投下を裁く市民法廷プロジェクトについて」という報告をしている。

何れも、原爆投下の違法性を問い直す高度な議論であったが、参加者は極めて熱心に参加しており、特に若い参加者から活発な質問が続き、質問が途中で打ち切られるほどの盛況ぶりであった。

参加者は、韓国、日本だけでなく、スイス、ベルギー、アメリカと多彩で、分厚い報告書が韓国語、英語、日本語でまとめられ、日本語、韓国語、英語の3カ国語の同時通訳がされた。受付を担当した韓国の SPARK のメンバーは、全員、そろいのシャツを着た若者たちで、韓国語が皆目分からぬ私が質問してもテキパキと日本語で応対してくれて気持ちよかったです(日本の参加者の高齢者が多いことと比べてうらやましいという声が多く聞かれた)。

アメリカ相手の原爆投下の責任を問う訴訟というのは、かつて故

- 【非核五項目】
- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
  - ② 国を厳守する非核三原則
  - ③ 日本の核戦場化へのすべを撤する
  - ④ 国家補償による被爆者援護法の制定
  - ⑤ 原水協の禁止世界大会の国際連帯を強化する

池田眞規弁護士らによ

つて真剣に検討されたことがあった。しかし、「米国相手の訴訟は無理ではないか」ということで実現していない。法廷闘争よりも、核兵器廃絶などの運動が大切ではないかなど意見もあり、現実にはアメリカ政府を相手の訴訟となると、今回の国際会議でも議論されたように難しい問題乗り越えなければならず、容易ではない。しかし、救済を放置され続けてきた韓国人被爆者にとつて(さらにいえば、北朝鮮に帰った被爆者は一切の救済の手が差し伸べられていない)、アメリカの責任を問いたいというのは大いに共感できることである、何よりも韓国民の熱い情熱から「何かしなければ」という気持ちがい

る。

しかし、韓国の市民社会による反核運動が世界で影響を發揮することができれば、核兵器保有国における市民社会の見方が変化が生ずる可能性がある。もちろん、このような変化が一朝一夕に生ずることはないであろうが、核兵器を廃絶するためにには不可欠である。

「核抑止論」を乗り越えるためには、世界の被爆者との団結、市民社会の多様な運動と世界規模での共同が不可欠である。そのためにも、日本国内にとどまらず、隣国韓国の反核平和団体との協働は不可欠である。そのためには、核兵器の非人道性を理解してもらうことである。韓国の平和運動とは連帯の土台があり、連帯が可能である。

あり、相当程度日本の被爆者と同じ援護を受けられるようにはなっている。私達が、原爆症認定集団訴訟で築いてきた、戦後70年以上経過しても人体に影響を与え続ける核兵器の非人道性について、韓国の被爆者、平和運動と共有することで新たな広がりを目指すことができるのではないか。

### 2 陝川(ハプチョン) 韓国原爆資料館の見学

訪韓3日目には、陝川(ハプチョン)の原爆資料館を見学した。

ここは、2017年に開館した韓国で初めての原爆資料館である。なぜ、韓国の地方都市であるハプチョンに原爆資料館なのか。

原爆による死者が何人なのか諸説あるが(そのこと自体が核兵器の非人道性を示す)、全体の犠牲者の20%近くが韓国・朝鮮人ではないかと言われている。戦後23,000人が帰国しているが、ハプチョン出身の強制

徴用者の大半が広島に連れて行かれ、ハプチョンは「韓国の広島」と呼ばれている。日本の被爆者も大変過酷な中で被爆後の人生を送ることになるが、韓国の被爆者は強制連行、被爆、放置という三重苦に苦しめられたという。

資料館の見学で、今回の韓国訪問でずっと付き添ってくれたイ・ジュンキュさんが、2005年5月29日、34歳の若さで亡くなった被爆2世のキム・ヒョンニユルさんの追悼碑に刻まれたハングルを訳してくれた。

キム・ヒョンニユルさんは、2002年3月、被爆2世であることをカミングアウト、その後、35歳の誕生日の目前亡くなるまで被爆2世、3世問題のために活動された。その生涯を讃えるための慰霊碑が資料館の横に建てられている。

「韓国原爆被爆者2世、韓国被爆者患友会の初代会長として病身

をおして原爆の違法性を知らせるために政府と国会だけでなく、日本にも何回にもわたって訪問しており、国内外、様々な機関とマスコミを通じて核なき世界を作り出すために私の生涯続けなければならぬと叫びながら韓国被爆2世の真相究明および人権と名誉回復の特別法制定にも大きく貢献した。持病で苦しんでいる体にもかかわらず、原爆被爆の深刻性を知らせるために生涯を閉じる日まで力を尽くして2005年5月29日、35歳の生涯で亡くなりました」

資料館見学の後には、隣接する「陝川(ハプチョン)原爆被害者福祉

会



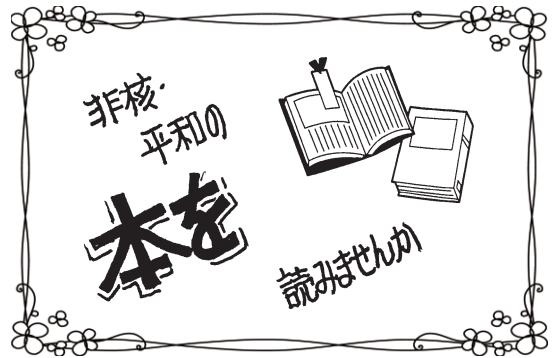
陝川(ハプチョン、せんせん)は、大韓民国慶尚南道の北部にある街です。第二次大戦後帰国した被爆者が多く住んでいます。「韓国のヒロシマ村」とも言われ、同名の著作もあります。

「韓国被爆者患友会」で韓国被爆者の皆さんとの交流の集い。韓国原爆被爆者2世患友会会長の韓正淳(ハン・ジョンスン)もあいさつ。韓さんは被爆2世で「大腿骨頭壊死症」を患い、3世になる息子も脳性麻痺の障害を持っているという。資料館では息子さんの映像も流れていた。

広島藤原医師も日本の被爆者の現状と課題を報告。

韓国の皆さんの熱い歓迎を受けて、たくさんのお土産をいただき、最後は皆さんで見送っていただいた。感激。(次号へつづき) 弁護士 愛須勝也





『市民とジェンダーの核軍縮—核兵器禁止条約で変える世界—』

当会の今年度の総会議案に示された「ジェンダーと非核」について、学ぶべき好著を紹介いたします。2020年に出版された川田忠明氏（日本原水協常任理事）の『市民とジェンダーの核軍縮—核兵器禁止条約で変える世界—』（新日本出版社）です。著者自身も述べていますが、この本のテーマは「核兵器廃絶にむけて、世界の構図変化のもとで市民社会が果たす役割とジェンダ

ー観点の重要性」です。著者がジェンダーを重視するポイントとは、「戦争のない世界とは、性差別のない世界である—私がジェンダー問題を平和運動の課題として重視してきた理由がここにあります」ということです。本著は全7章で構成、第1章パンデミックから学ぶこと、第2章市民の力が世界を変える、第3章核兵器禁止条約はどううまれたか、第4章日本共産党はこうはたらきかけて、第5章戦争と平和をジェンダーから考える、第6章ジェンダー観点で核軍縮を、第7章「核抑止力」論と軍事同盟、以上です。第5章と第6章がジェンダー問題に直接にふれる章です。第5章で平和や軍縮をテーマにするとりくみ



2017年6月17日、核兵器禁止条約の国連会議を受けて米国の女性団体が呼びかけたニューヨークでの「核兵器を禁止する女性行進」。日本からの参加者もいた（しんぶん赤旗提供）

（国際会議などに）「なぜ女性の参加が必要なのか」として、その積極的な理由を指摘、20世紀の後半からの諸会議を検証されたうえで、「8 軍縮プロセスにもっと女性参加を」と述べられます。そして、第6章で「ジェンダー観点で核軍縮を」として、核兵器禁止条約の交渉過程のなかでジェンダー観点の重要性が認識されていきました。今夏から年末にかけての核兵器廃絶にむけての国際会議を成功させていくうえでも改めてジェンダー問題を学ぶ必要性があります。（P262、1700円税別）

シリーズ大阪における国民平和行進⑬  
1973年の平和行進：能勢ナイキ反対と第19回世界大会を結合（7・22）  
1973年、1月早々パリ和平協定が調印され、米軍が南ベトナムから敗退。田中角栄首相、防衛目的限度内での核兵器保有が憲法に違反しない、と発言。日本原水協は、非核三原則の立法化、被爆者援護法制定国会請願行動を取り組みます。フランスの核実験に対してオーストラリア、ニュージーランドは国際司法裁判所に国際法違反として提訴。中国の大気圏内核実験強行、アメリカ年内7回目の核実験、ソ連年内3回目の核実験。参院であらゆる国の核実験反対の核兵器全面禁止協定の締結を要求する決議案を全会一致で採択されます。第19回原水爆禁止世界大会は、「長崎アピ

ール」を発表、核兵器完全禁止の国際協定締結のために、諸国民が団結と統一を拡げることと訴える大会となりました。核戦争準備と核軍拡がいつそう強化されるなかで、核兵器廃絶への要求と原水爆禁止運動の統一への気運が高まり、1973年の平和行進はこの世論結集の先頭にたつて取り組まれました。また、平和行進には、世界大会開催地や主要都市では集中行進をおこない、海外代表が全国代表といっしょに歩くなど、海外の平和運動との連帯を強めてきました。この年の平和行進は、7月8日、広島・平和公園を出発して長崎に向けて出発しました。大阪では、「能勢ナイ



能勢ナイキ反対闘争三周年、第19回原水爆禁止世界大会の成功をめざす能勢平和行進(天王地区7.22) (大阪民主新報より)

キ反対闘争三周年、第19回原水爆禁止世界大会の成功をめざす能勢平和行進」として7月22日、現地集合能勢・深山いかるが牧場前に集合して集会のうち移動して天王地区平和行進を取り組みました。行進には51名が参加、その後半戸訪問に取り組みました。行進に先立って行われた集会では竹花義郎大阪原水協会長代行が「原水禁運動の統一の気運が起こっているが、このためには第19回世界大会を大きく成功させなければならぬ。十万人の署名を集め、大阪から五百万名の代表団を送り出そう」と訴えました。前夜から大阪平和青年会議のメンバーが泊まり込んで、地図の作成などの準備に活躍しました。



## 核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」についての声明

～核廃絶を究極のあなたに追いやろうとする岸田首相をはじめG7首脳に抗議します～

2023年5月29日

非核の政府を求める大阪の会 常任世話人会

被爆地広島で行われたG7首脳会議は5月19日に「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」(以下、「広島ビジョン」といいます)を発表しました。しかし被爆地広島の名を冠したこの「広島ビジョン」は、被爆者の思いを踏みにじり、ヒロシマを愚弄する内容であり、岸田首相をはじめとするG7首脳に対し当会は強く抗議します。

「広島ビジョン」では「ロシアのウクライナ侵略における、ロシアによる核兵器の使用の威嚇」・「使用」は許されないとし、立場を異にする国の核兵器を批判はしますが、「我々の安全保障政策は、核兵器は、それが存在する限りにおいて、防衛目的のために役割を果たし、侵略を抑止し、並びに戦争及び威圧を防止すべきとの理解に基づいている」(外務省仮訳)と、核抑止論に立ち、自らは核兵器を保有し続けて核廃絶を目指さないことを堂々と表明しているのです。これは、世界で署名・批准が進んでいる核兵器禁止条約にも逆行するものです。

ウクライナ侵攻以来、プーチン氏は、自国の核兵器は防衛的なもので自国に対する侵略や攻撃を抑止するものであり、西側諸国こそが核の威嚇をしていると、再三述べてきました。G7首脳の主張は、プーチン氏と同じ立場どころか果てしない核軍拡競争を進めるものであり、核廃絶を願う被爆者や世界の人々と敵対するものです。

昨年インドネシアで行われたG20の首脳宣言は、「核兵器の使用や脅しは容認できない」と明記されました。今回の広島ビジョンはこのG20の首脳宣言からも後退したものです。

岸田首相は被爆地広島選出の国会議員であることから、核保有国と非保有国の橋渡しになるとアピールしてきました。しかし自らが議長となって作成した広島ビジョンは、昨年開催された核兵器禁止条約締約国会議やNPT再検討会議での成果に全く触れず、広島に対する裏切り行為です。核保有国と、非保有国との「橋渡し」になるどころか、核保有国に核の威嚇を続けることを促す、被爆国の首脳として恥ずべきものです。

核兵器の威嚇に対し核兵器の威嚇で対抗しようとする核抑止論の延長線上には核兵器なき世界はありません。核抑止論を克服した先にこそ核兵器なき世界が訪れます。私たち「非核の政府を求める大阪の会」は、核抑止論の欺瞞性を明らかにし、核兵器廃絶の国内・国際世論をたかめる取り組みをすすめます。



## 夏のとくみ

- ◆ 田辺模擬原爆追悼のつどい  
7月26日(水) 9:00 恩楽寺
- ◆ 第71回関西平和美術展  
7月26日～30日 10:00～17:00  
会場:堺市立文化館ギャラリー
- ◆ 原水爆禁止2023年世界大会(右記)  
国際会議:8月4日～5日(広島)  
ヒロシマデー:8月6日(広島県立総合体育館「グリーンアリーナ」)  
※ヒロシマデーは大阪原水協事務所でオンライン参加します  
世界大会—長崎(ナガサキデー集会)  
※大阪代表団は長崎中心に派遣(右記)
- ◆ 堺平和のための戦争展(実行委員会)  
8月5～6日(日) サンスクエア堺



昨年の田辺模擬原爆追悼式



昨年の世界大会

## 原水爆禁止2023年世界大会(長崎)参加要綱

- 世界大会—長崎 8月7日(月)～9日(水)  
8月7日(月) 15:00～17:30 開会総会  
長崎市民会館体育館と文化ホール  
\*大阪代表団集会:14:30～(予定)
- 8月8日(火) 9:30～16:30 分科会・うごく分科会
- 8月9日(水) 10:30～13:00 閉会総会 長崎市民会館体育館と文化ホール
- 参加費用  
一般参加者:93,000円、被爆者・障害者:81,000円
- 交通手段  
\*往路 8月7日(月)のぞみ273号 新大阪駅 07:56～博多駅 10:24(120席)  
のぞみ99号 新大阪駅 08:18～博多駅 10:46(120席)  
長崎新幹線利用リレーかもめ・かもめ21 博多駅 10:52～長崎 12:29(60席)、リレーかもめ・かもめ2 博多駅 11:52～長崎 13:24(60席)  
バス 博多駅前発 11:00 長崎世界大会会場前 14:00(120人) ※復路など詳細は大阪原水協HP参照
- 申し込み  
第1次締切は7月3日。定数になり次第締切となります。  
代表登録 7月19日(水)～20日(木)

